

ネパールから

サマンタだよい



Vol.5 (2016年5月9日)

反差別草の根交流の会「サマンタ」ニュースレター

Society for Grassroots Interaction and Initiation against Discrimination - SAMANTA

巻頭言 「日本、ネパール、復興に向けて・・・」

9000人近い犠牲者を出したネパール地震から一年、被災者の皆さんには未だテント生活を余儀なくされている人も多い状況です。

ネパールへの現地訪問はまだ叶っていませんが、2016年4月5日～4月8日には宮城県石巻市に、「3.11大震災支援行動」に行ってきました（主催 部落解放同盟兵庫県連合会）。街の中は、新しい家や店、工場などが建ち復興の様子も感じますが、海の近くに行くと、まだ、あちこちで土盛りをしていて、「えっ、まだこんな状態なん！」と、感じる事が色々ありました。

今回の訪問の目的は、西光寺の墓（2000基近く）の草刈りと清掃、古い塔婆燃やしです。2日目は、大雨の中での作業だったので大変でしたが、墓守をする人たちが、津波に流され亡くなったために、壊れたままの墓がたくさんあり、その回りの草刈りや、清掃をすることができました。もちろん作業だけではなく、この間、住職さんをはじめ、何人かの方のお話を聞くことができました。

「西光寺の近くに津波で本堂も仏様もすべて流されてしまっている称法寺があります。そこの住職さんは、心が痛み、アルコールの量も増え、とうとう自死してしまった。“これまでずっと関わってきたのに、死なせてしまってくやしい”そんな体験から生きる事に向き合っていきたい」（住職さん）

「息子が津波に流され、自分も死ぬことしか考えなかったけど、人との出会いで希望をもって、息子に対する愛を抱きしめて生きていく。」（住民の女性、50代）

「妻、兄、姉、孫が、津波に流され今も行方不明、一人ぼっちになったけど、散り散りになってしまった地域の人たちを“神楽”の文化や漁業の復活をめざし、人々を元気にさせたい」（住民の男性、70代）

苦しみから立ち上がろうとする「心の叫び」を聞かせていただいたり、温かい人の心に出会ったことを、大切にしていきたいです。東北から帰ってきて間もなく、熊本の震災。こちらでも、各方面で支援が開始されています。

私はこれまでネパールで、人として当たり前生きる権利を人の手（政治・政策）によって奪われる苛酷な状況の中で闘い続ける人々と出会い、「実践から得るもの」をたくさんいただき、日々の部落解放運動の中で大切にしています。

一日も早く、熊本、東北、ネパールの被災者の人びとの心の傷が癒やされ、復興につながるよう、これからも連帯して行動していきたいです。

池田 千津美（サマンタ共同代表）

報告「ネパール大地震から1年～現地からの報告」

募金へのご支援ありがとうございました！

2016年3月31日現在 募金総額 1,062,648円 現地への送金額 817,499円

(内訳：SAGUN 397,499円 FEDO 420,000円、残金の245,149円は6月にFEDOへ送金します)

2015年4月25日と5月12日にネパールを襲った大地震から1年が経ちました。サマンタの募金活動でも多数の皆様にご協力いただき、2つの現地NGO「フェミニスト・ダリット協会（FEDO）」と「SAGUN」に義援金を届けました。皆様からいただいたお志は、他の団体からの支援と合わせてFEDOと「SAGUN」による救援活動の経費として役立てられました。以下では、FEDOの支援活動の全体の概要についてご報告します。(2016年3月末付 FEDOからの報告より)

1. 緊急救援物資を1,287世帯に配布しました。

地震の発生直後である4月29日から5月にかけて、FEDOのスタッフ、ボランティアによって被災地域8郡のダリット居住地において、救援物資を配布しました（「サマンタだより No.4」にて、FEDO代表ドゥルガ・ソブさんの報告にて既報）。



竹と垂鉛板でできた仮設住宅

2. 仮設住宅を150基建設しました。

被害の大きかったカブレ郡において、仮設住宅を150基建設し、600人に当面の住まいを提供しました。現在のところ、損傷もなく無事に生活をおくれているとのこと。

3. 学校でのトイレの設置に関する調査を実施、ならびに学生への制服・学用品支援の準備

大多数の公立学校のトイレは地震によって倒壊しました。そのため、現在被災地域での学校におけるニーズ調査を実施しています。調査終了後、トイレの建設を開始する予定です。あわせて、貧困度合いの高い子どもたち100人に対して学用品ならびに制服を配布する事業も4月の新学期に向けて準備中です。

4. ダリット女性自助グループを新たに結成し、ダリットの女性リーダーを育成しました。

復興支援の過程において、女性の声を反映させるために地域の女性リーダーたちが果たす役割は大きいです。今回、シンドゥパルチョーク郡、ヌワコット郡、ダーディン郡で、新たに12のダリット女性自助グループを結成しました。FEDOスタッフのコーディネーターと共に、自らの権利についての学習、地方行政への提言、収入創出の活動を行いました。そして、40人の女性を対象に2日間のリーダーシップトレーニングも開催しました。また彼女たち自身の心の傷を癒すために、カウンセリングも実施しています。



ダリット女性自助グループの集会

5. 被災したダリット女性のための職業訓練を実施しています。

職を失った被災地のダリット女性18人に対して縫製の訓練を実施しており、仕立師として自立の道

を拓けるように支援をしています。

6. 地方自治体、関係者、地域住民間の意見交換プログラムの開催、および、政府機関関係者への定期的なロビー活動を実施しました。

ダーディン郡とシンドゥパルチョーク郡の郡役場において、郡行政長はじめ行政の各機関とともに、平等かつ効果的に政府の支援金が分配されるよう、意見交換を実施しました。昨年制定された新憲法にも、社会において周縁化されたダリットへの配慮の必要性が示されています。この意見交換において、郡長は「深刻な被災状況下におかれているダリットを優先的に支援する必要がある」と述べ、日常的に貧困かつ脆弱な生活状況のダリットの状況に理解を示しました。郡庁だけではなく、復興庁や郡災害救援委員会、村落開発委員会など様々な機関に赴き、ダリット女性の被災状況を訴え続け、復興支援の実施の過程にダリット女性の視点を導入することや、意思決定の場にダリット女性自身を参画させるよう働きかけています。このように、主たる復興支援、マイノリティの権利保障の担い手である行政への働きかけを継続しています。



郡庁での意見交換会のようす

7. 被災地での調査ならびに評価の活動を継続

被災地に支援された仮設住宅の状況、学校など施設の状況について、FEDO のスタッフが村々を訪問してチェックし、問題がおこっていないか、新たなニーズがあるか、について村の人びとと意見交換をしています。一回きりの支援ではなく、継続して訪問しつづけ、FEDO での対応に限界がある場合は行政や他の支援機関につないでいます。

(抄訳・まとめ：山本)



調査活動で訪れたカブレ郡の村で

引き続き、大地震復興支援へのご協力をお願い致します

被災地のダリットの人びとは、自宅の再建には至っていない人が多く、未だ仮設住宅で暮らしています。現在ネパールは雨季を迎え、暑くなるこの時期には下痢や感染症の罹患率が急増し、お年寄りや乳幼児が命を落とすことも少なくはありません。FEDO が提供した仮設住宅はまだ十分に居住できる状態ではありますが、現在は緊急支援の物資提供もストップしており、人びとの貧困状態は悪化しているとのことです。また、復興庁は被災世帯の調査をふまえて、各世帯に 20 万ルピーの給付を決定しましたが、村の人びとにとって給付を受けるための手続きは煩雑で、すべての被災者に支援が行き渡るには長い時間がかかります。

サマンタは、FEDO が実施する被災地のダリットのための活動を引き続き支援するために、募金活動を継続したいと思います。復興へ向けた、息の長い支援をどうぞよろしくお願いいたします。

郵便振替口座 00980-7-195507

名義 反差別草の根交流の会「サマンタ」

※通信欄に「ネパール地震募金」とご明記下さい。

報告 「関西ネパールフェスティバル」に参加しました

2016年1月23日、芦屋の「あしや市民活動センター」でネパール大地震被災者への支援を呼びかける「関西ネパールフェスティバル」が開催されました。NPO 法人アジア女性自立プロジェクト（AWEP）の主催で、サマンタからはメンバー2人が参加しました。会場には、関西を拠点にネパールでの支援活動をしている、サマンタを含め9団体がブースを設け、写真やパネルの展示、現地で作られた服や小物の販売もあり、あちらこちらで交流の輪が広がりました。午後からは、人身売買のサバイバー当事者団体「シャクティ・サムハ」スタッフの現地報告に加え、9団体が実施するネパールの子ども達への野球指導、学校建設、耐震性建築技術の協力など、それぞれの団体の特色をいかした支援活動の様子のリレートークが行われました。サマンタは FEDO から提供された被災地の状況について映像を流しながら、普段の活動の説明や、支援状況の報告を行いました。その後ネパールダンスの披露があり、会場内もダンスの指導を受けて大いに盛り上がりました。また同会場では、神崎川駅近くの三津屋商店街にあるネパールレストラン『パリジャート』の料理も味わうことができ、ネパールの様々な文化を楽しむことができました。今回のイベントを通して、様々な角度の支援活動を知り、私達も勇気づけられました。（Noricchi）



フェスティバル終了後、全員で記念撮影！

報告 第11回人権フェスティバル「ネパール大震災パネル展示」

2015年9月26日、27日に伊丹市立人権啓発センターで開催された、「第11回人権フェスティバル」で、ネパール大地震のパネル展示を行いました。フェスティバルに訪れたたくさんの方々に、ネパールでの震災の状況や、支援の様子などを知ってもらう機会となりました。

また当日は震災募金の用紙や、サマンタのニュースレターも配置させてもらい、手に取られている方もいました。東日本大震災、熊本地震でも長期的な復興・支援活動が必要ですが、ネパールでも同じく厳しい状況があります。今後も息の長い支援を行っていきたいと思います。

（かおる）



展示のようす

報告 「サマンタ 10+2 就学支援基金」 2016 年度奨学生について

～現地パートナー団体「SAGUN」からの報告

【2016 年度奨学生紹介】

2016 年度は、12 年生になったラム・サリ・ラマさん、シタ・タマンさんに加え、今年度は新たに 11 年生としてイェルミラ・マツラさんが奨学生となりました。



イェルミラ・マツラさん (17 歳)
カブレ郡カルパチョーク村在住

現在、シュリ・マンガル・ジャナビジャヤ上級高校の 11 年生です。両親、姉、弟の 5 人家族。農業を生業とする家族と共に暮らしていますが、昨年の大地震で自宅が倒壊。現在、仮設住宅で暮らしています。

(継続) ラムサリ・ラマさん (12 年生、写真下左) / シタ・タマンさん (12 年生、写真下左)



(SAGUN より) 昨年度から引き続き奨学生として支援してくださり、ありがとうございます。2 人とも他の学生に比べるととても貧しい家庭の子どもたちですが、とても勤勉で頑張っています。昨年の地震で 2 人の家も倒壊し、現在家族と仮設住宅で暮らしています。

【奨学生からの報告】

カルパナ・タマンさん (2014 年度、2015 年度支援)

「大地震で自宅が全壊し、現在仮設住宅で暮らしています。12 年生終了時の最終テストの結果を待ちながら、実家の農業を手伝って日々を過ごしています。サマンタの皆さんからの支援に感謝しています。」

ラサリ・タマンさん (2014 年度、2015 年度支援)

「現在、首都のカトマンズに住んで、兄の商売を手伝っています。カルパナと同じく、現在 12 年生終了時の最終テストの結果を待っているところです。奨学金の支援、ありがとうございました」

【震災後のカルパチョーク村の状況】

地震のあと、SAGUN は奨学生たちの住むカルパチョーク村においても支援活動を実施しました。地震直後は、緊急支援としてテント、ミニソーラーパネル、医薬品を配布しました。日本から寄せられた募金はまとめて、SAGUN の活動地域であるカルパチョーク村、マンガルタール村での活動に役立てられており、緊急支援の後は村の公立学校の補修、仮設住宅の建設、職業訓練費用などに活用されています。



カルパチョーク村で、テントの寄贈

■会員コーナー■



ネパールスタディツアーで佐野由美さんがボランティアをしていたラリット福祉小学校にて（筆者中央）

サマンタとの出会いは、約8年前のスタディツアーです。小学校教員として解放運動と出会い、前から興味があったネパールへ行ける！ということでとびつきました。佐野由美さんの映画「with～若き女性美術作家の生涯～」と出会ったのもこの頃です。以降、サマンタ主催のネパール語教室で勉強したり、学習会に参加したり、細々ですが楽しくかかわらせてもらっています。サマンタを通して、これからもみなさんやネパールとつながっていきたいと思います。（田中千晶）



佐野由美さんの作品

報告 第3回 反差別草の根交流の会「サマンタ」 総会を開催しました

2015年10月18日 10:00～11:00に、NPO法人伊丹人権啓発協会（「おるか」の会）事務所（伊丹市堀池）にて、反差別草の根交流の会「サマンタ」第3回総会を実施し、7人が出席しました。2014年度の活動報告、会計報告ののち、2015年度の活動計画としてはネパール大地震緊急・復興支援活動を現地パートナーNGO「SAGUN」ならびに「FEDO」のため募金活動を行い、現地NGO主体の復興支援事業をサポートすることに加え、サマンタ「10+2」就学支援事業を継続する2つの取組みを柱として、あわせて地域での学習会・報告会を行っていくことを予算とともに決議いたしました。また、2015年度より事務局は中川加代子が退任し、山本愛が担当することになりました。今後引き続き、どうぞよろしく願いいたします。（山）

【事務局より：編集後記】



サマンタは、部落解放運動のほか、「人権」の様々な領域に関わる人達で構成されているボランティア団体です。それぞれが仕事をもち、子育てをしているメンバーもいる中で、ゆるやかにつながりながら、活動しています。

ネパール大地震の後、サマンタの活動および関わってくださる方々の幅も広がってきました。今後新たにサマンタとして取り組めることや、サマンタならではの活動について、現地パートナー団体のFEDOと共に検討をしています。現在の震災復興支援、就学支援の他、ダリット女性や子どもたちの権利が保障され、暮らしが守られる取り組み以外にも、日本との水平な関係づくりのための活動を模索しています。新たな取り組みについては、今年度中をめざして、改めてご報告させていただきたいと考えています。また、国内では部落解放やダリット解放運動につながる人達とのネットワーク、情報発信にも関わっていけたらと考えています。

会員として「サマンタでこんなことやってみたい！」というアイデアも大募集中！ぜひ活動にご参加ください。お待ちしております！（Kaoru & Ai）

サマンタだより vol.5

発行年月日：2016年5月9日

編集・発行：反差別草の根交流の会「サマンタ」

連絡先：兵庫県伊丹市平松7-1-16 山本方

E-mail：samanta_sgid@yahoo.co.jp

URL <http://www.samantajapan.jimdo.com>